

| | |
|-------|------|
| 指導教員名 | 長坂泰之 |
|-------|------|

| | | | |
|------|------------|-----|-----|
| 活動区分 | イベント企画型 | 連携先 | 高店街 |
| | イベント支援・運営型 | | |
| | | | |

～ 千林商店街における「第5回千林昭和写真展」(ダイエーの歴史文化展示)2年生 ～

活動の様子



「昭和写真展」会場(ふれあい館)



準備活動の風景(4年生が後輩に)



クイズに関するアンケートを実施中

企画・活動概要

長坂ゼミでは、ダイエー創業の地である大阪千林商店街振興組合が開催する「昭和写真展」で、ダイエーの歴史文化展示及びクイズ出題の企画・運営をしました。ダイエーの歴史文化展示では、本学保有の写真を提供・展示するとともに、ゼミ生がダイエー・中内功・流通科学大学に関する年表を作成・展示しました。クイズでは、ダイエー・中内功・流通科学大学に関して、前述の年表やクイズの動画を作成し、来街者に対して実施しました(ポスター貼付、アンケートも実施)。なお、本学はダイエーや千林商店街などの写真提供をしていることから、京阪電車の中吊り広告に大学名称が掲載されました。



千林商店街振興組合の事務所でのレクチャー

経緯・背景・目的

大阪千林商店街振興組合はダイエーが創業した商店街として有名で、長坂ゼミは2020年度から社会共創活動を展開している商店街です。昨年度も同様の企画で商店街から高い評価を得たことから、本年度も、参加協力を求められたものです。ダイエー創業の地の千林商店街の活性化に、本学の学生が社会共創活動を通じて貢献することは、非常に有意義であると考えています(実施日は2021年10月9日)。



当日の千林商店街の様子

取り組む課題

千林商店街では、10年以上前から年に2回100円商店街を実施していました。100円商店街とは、来店者アップと新規顧客獲得を目的に、商店街の各店舗(90%以上の参加を求める)がオリジナルの100円商品を表示・販売するもので、非常に集客力のある活性化策です。しかしながら、その高い集客力がコロナ禍では「3密」となることから、開催することができなくなりました。長坂ゼミも2020年度に社会共創活動の一環として、100円商店街への出店が決まっていたが、別の形で商店街活動への参加を模索し今回の企画になったのもです(2020年度に引き続き実施)。



100円商店街実施時の賑わい(コロナ禍前)

本学(学生)の役割

前述のとおり、本学のゼミ生の役割は、「昭和写真展」で、ダイエーの歴史文化展示及びクイズ出題の企画・運営でした。ダイエーの歴史文化展示では、本学保有の写真を提供・展示するとともに、ゼミ生がダイエー・中内功・流通科学大学に関する年表を作成・展示しました。クイズでは、ダイエー・中内功・流通科学大学に関して、前述の年表やクイズの動画を作成し、来街者に対して実施しました(3年生も参加、経験のある4年生も協働)。※コロナ感染対策を講じて実施しました。



「昭和写真展」のポスターを貼る

活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

コロナ禍において、活動を躊躇するゼミもあるなかで、コロナ感染対策を講じながら、商店街活性化の活動に参加することができました。「できない」と考えるのではなく、「どうしたらできるのか」を考えることを通じて「前に踏み出す力」が身に付いたと思います。次に、来街者の客層を想定しながらどのようなクイズが適切なのか、どのようなクイズの出し方が適切なのかなどをしっかりと「考え抜く力」も身に付いたと思います。最後に、2, 3, 4年生が協働して実施したことで、「チームで働く力」が身に付いたのではないかと思います。



まずは商店街事務長と名刺交換

指導教員および関係者の紹介

<指導教員>



商学部
マーケティング学科
准教授
長坂泰之(ナガサカ ヤスユキ)
＜専門・担当科目等＞
商業まちづくり、流通政策、中小企業経営論

<関係者・企業等>

千林商店街振興組合
理事長
梶村範子(スギムラ ノリコ)

長坂ゼミは、「チャレンジ」をモットーにするゼミナールです。自らの可能性をポジティブに考えるチャレンジングな学生を求めています。商業まちづくりの世界を中心に、社会の現場を五感で感じることを通じて、企業&まち&自分たちの価値について学び、体感するゼミナールです。

千林商店街は100年以上の歴史があり、大阪3大商店街の一つと言われております。今では、2代目や3代目の若手社長が店を切り盛りし、日々頑張っております。月に一度のペースで行っているイベントや抽選会などで楽しくお買い物・ご飲食して頂き、地域の方々とのコミュニティの場として一翼を担い、日々精進しております。